

令和7(2025)年度
第43回「NHK 海外たすけあい」事業報告

人道支援に 空白地帯をつくらない。

赤十字は、
動いてる！



NHK 海外たすけあい 2025年 12月1日(月)～12月25日(木)



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

はじめに

「人道支援に空白地帯をつくらない。」

世界各地では今もなお、紛争や暴力、気候変動による自然災害などによって、多くの人々が厳しい状況に置かれています。令和 7 年度は、世界で約 3 億人が緊急の人道支援を必要としている一方で、人道支援のための資金は減少傾向にあり、関心の差が支援の差につながるという懸念が一層高まりました。

中東地域、ウクライナ、バングラデシュ、アフガニスタン、スーダンなどでは、紛争や暴力により故郷を離れざるを得ない人々は増加したほか、各地で発生した自然災害が、人々の暮らしや地域社会に深刻な影響を及ぼしました。

そのような中、赤十字は、190 以上の国や地域に広がる赤十字社・赤新月社、赤十字国際委員会(ICRC)、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)などと連携し、地域に根差した活動と世界的なネットワークを生かしながら、人々のいのちと健康、尊厳を守るために活動を継続しています。

日本赤十字社は、第 43 回 NHK 海外たすけあいキャンペーンを通じてお寄せいただいた皆さまからのご支援により、中東地域、ウクライナ、バングラデシュをはじめとする各地で、人道危機の渦中にいる人々への支援を行いました。また、紛争や災害の影響を受けた地域社会が再び力強さを取り戻せるよう、紛争後・災害後の復興(レジリエンス)促進に取り組む人々を支援しました。

改めまして、ご支援をお寄せくださった皆さまお一人おひとりに心より感謝申し上げますとともに、皆さまからの信頼にお応えできるよう、人道支援に空白地帯をつくらないための活動にこれからも尽力してまいります。

令和 8 (2026) 年 8 月
日 本 赤 十 字 社



リハビリ普及のためのトレーニングで技術指導を行う日本赤十字社の理学療法士(写真中央右)©URCS

目次

令和7(2025)年度「NHK 海外たすけあい」の実績	3
赤十字の国際活動の特徴	5
世界から届いたありがとうの声	6

令和7(2025)年度「NHK 海外たすけあい」の実績

NHK と日本赤十字社の共催で昭和 58(1983)年から始まった「NHK 海外たすけあい」募金キャンペーンは、令和7(2025)年度で 43 回目を迎えました。キャンペーンが始まってから今回までに皆さまからいただいたご支援は、累計約 311 億円に上り、世界 178 の国と地域の支援を必要とする人々に届けられました。

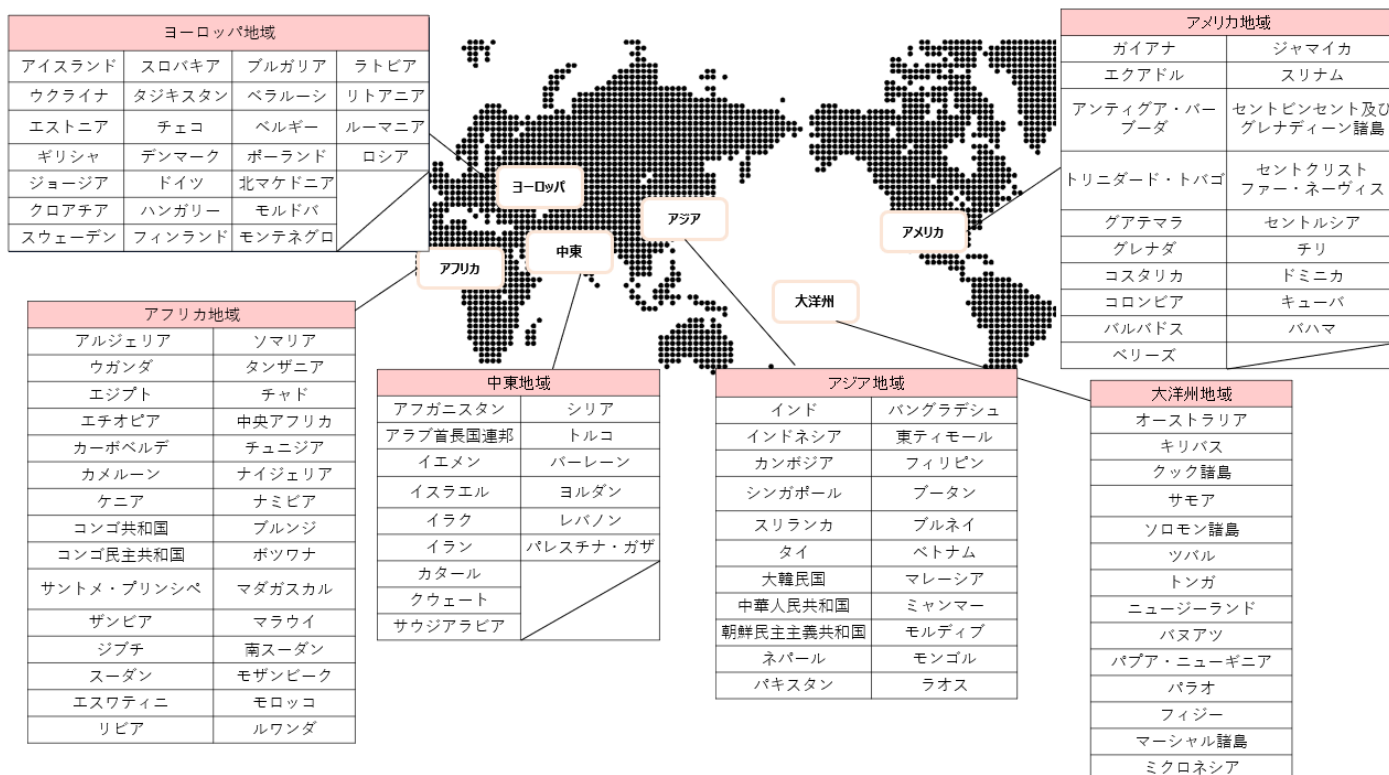
令和 7 (2025) 年度の実績

■ 寄付件数 **81,828 件** ※個人・法人を含む

■ 実績額 **8 億 7,232 万 3,696 円**

令和 7 (2025) 年度の支援地域

紛争地での救援活動や災害時の緊急救援から復興支援、開発協力まで世界 125 の国と地域を対象とした支援活動を実施しました。



支 援 金 の 使 途 詳 細 （単位：円）

【収入】

前年度繰越金等	8,039,794
令和7(2025)年度募金額	872,150,496
収入合計	880,190,290

【支出】

紛争に伴う難民・避難民などへの対応	222,364,242
・中東地域の人道危機への支援	144,488,860
・アフリカ地域の人道危機への支援	37,500,000
・バングラデシュ南部避難民への支援	31,375,382
・その他の地域で紛争に苦しむ人々への支援(ウクライナを含む)	9,000,000
頻発、激甚化する災害への対応	272,165,257
・洪水や干ばつ、地震など災害の被災者への支援	101,633,681
・アジア・大洋州における災害対策・防災への支援	23,193,388
・緊急時に即時に対応するための救援物資備蓄、体制整備等への支援	147,338,188
人々のレジリエンスを高めるために	328,713,787
・気候変動等に対するレジリエンス強化への支援	124,738,198
・保健医療向上、救急法普及等への支援	97,896,071
・赤十字活動強化による地域総合支援	106,079,518
NHK 海外たすけあい募集資料等作成費	52,329,029
支出合計	875,572,315

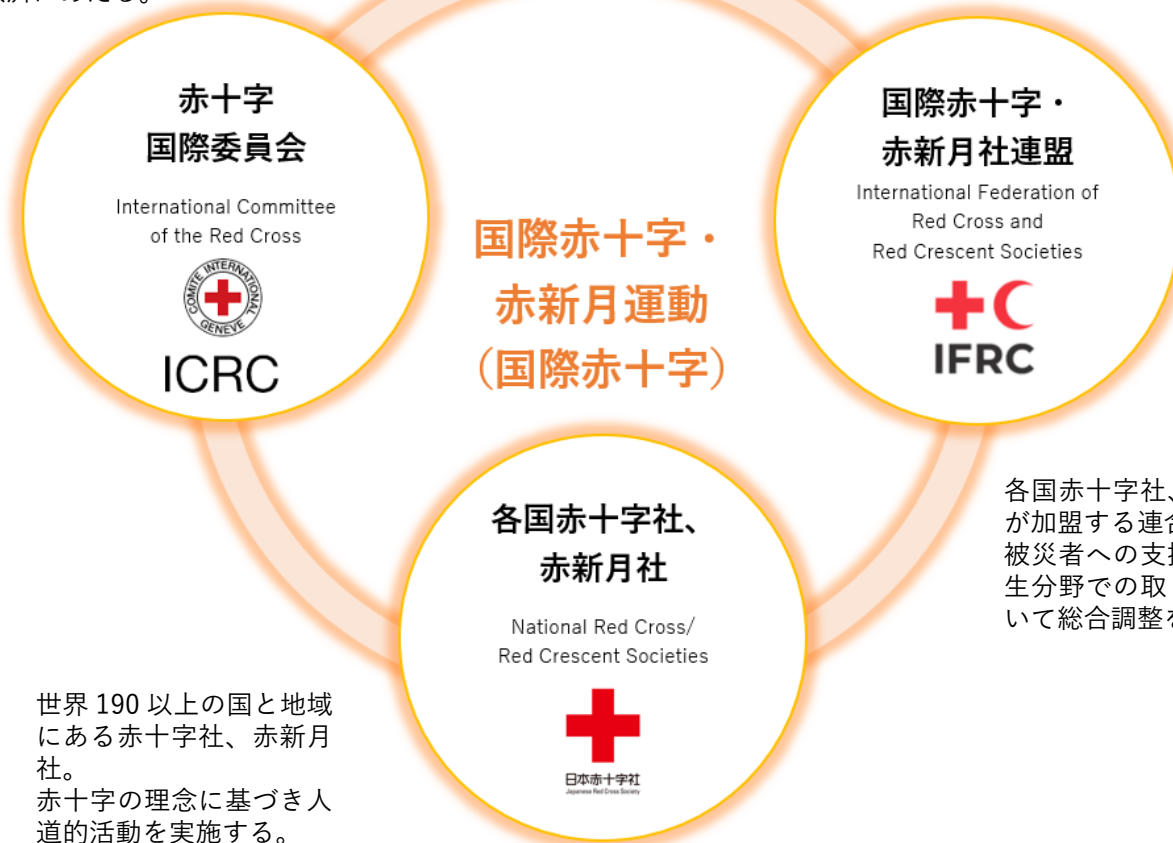
翌年度繰金	4,617,975
-------	-----------

赤十字の国際活動の特徴

「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命を果たすために3つの機関が活動しています。この3つの機関は紛争時や災害時だけではなく、平時においても互いに協力・連携し、世界各地で人道活動を展開しています。

赤十字の国際的なネットワーク

紛争時に中立機関として犠牲者の保護と救済にあたる。



各国赤十字社、赤新月社が加盟する連合体。被災者への支援や保健衛生分野での取り組みにおいて総合調整を担う。

世界 190 以上の国と地域にある赤十字社、赤新月社。赤十字の理念に基づき人道的活動を実施する。

赤十字の支援の特徴

- ✓ 「苦しんでいる人を救いたい」という共通理念のもと、世界 190 以上の国と地域にある赤十字が支援を直接届けます。
- ✓ 地域に根差して活動しているため、いち早く且つ継続して支援することができます。
- ✓ 各国に赤十字があり、中立の立場で活動しているからこそ、国際支援の届きにくい地域にも支援を届けることができます。



ミャンマー地震の被害を受けた地域でミャンマー赤十字社が展開する巡回診療に帯同する日赤看護師(写真中央左)©MRCS/IFRC

レバノン共和国:バダウィさん



武力衝突が続く中、慢性疾患の薬の入手が難しく、治安や費用への不安から、診療所に通うこともためらってしまいます。それでも、赤十字の診療所では、診察や薬が低額で提供されており、私や姉のように生活に苦しむ患者でも安心して通えます。必要な医療を支えてくださる日本の皆さんに心から感謝しています。地域にとってなくてはならない存在です。



コンゴ民主共和国:サミュエルさん

エボラが広がる中での恐怖や偏見のせいで、妻の遺体が何も無い地面に放置され、このまま腐敗してしまうのではないかと、とても不安でした。でも、赤十字ボランティアのおかげで、妻は尊厳をもって埋葬されました。この本当に苦しい時期に、彼らはずっと私を支えてくれました。私たちの痛みに寄り添い、心を慰めてくれる存在です。

(写真:©IFRC)



アフガニスタン:モハマド・ジャンさん

農業は常に不安定でした。冬には仕事がなく、頼るものが何もありませんでした。赤十字による生計支援のおかげで、今では携帯電話の修理を通じた収入によって日々の生活費を賄うほか、息子たちを就学させることもでき、人生と子どもたちの未来を再建できました。

(写真:©ARCS)